

きらりと光る茶つき

沼田東小学校では、約六十年前から『茶つき』を行っています。静岡県から緑茶の種を頂いたのが始まりだそうです。今までの私は、年一回しか行わない行事なので、沼田東小の自慢だと自信を持って言えませんでした。

しかし、その茶つきについて今年度の総合的な学習の時間に、みんなで沼田東小の宝と言えるように取り組んでいくことになりました。

私たちは、あまり知らない沼田東のお茶をどのように多くの人にアピールしたらいいのかをみんなで真剣に考えました。その結果、お茶を使った商品開発を行うことになり、総合技術高等学校の食デザイン科の方々に協力していただくことになりました。試作・プレゼンなどを経て、三つの新商品が完成しました。とても素晴らしい商品だったので、とても嬉しかったです。

十一月、高校生の皆さんと総合技術高等学校で行われている華金カフェと一緒に販売することになり、パンフレット等を作成して、沼田東の魅力積極的にアピールしました。販売した三つの商品はすべて完売したので、多くの人が沼田東小のお茶を使った商品に関心を持ってくれたと実感することができました。

私は、このプロジェクトを通して、伝統や魅力を人に伝える難しさ、アイデアを形にする大変さを学びました。また、沼田東小の良さについても自信を持って言えるようになりました。仲間と協力して最後まで取り組めたことで本当に成長することができたと思います。この経験をこれからも生かして、卒業しても地域に誇りを持って頑張っていきたいと思えます。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第40回 —

久井で学んだこと

僕は十五年間久井町で過ごし成長する中で、苦しいときでも挑戦し続けるという精神を学びました。それは、将来どんなときでもきつと僕を支えてくれるに違いありません。

中学校で野球部のキャプテンを務めていた僕は、最初のころは部員をまとめることができず、辛くて部活をやめたいと思ったこともありました。しかし、逃げないで、キャプテンとしての自分の思いを全員に粘り強く伝えていくと、チームがまとまってきました。部員一丸となり臨んだ最後の大会では準優勝することができました。

「いい試合があったら。」
応援してくれていた父母、保護者の皆さんが僕たちのがんばりを口々に誉めたたえてくれました。その時のチームのみんなのやりきったすがすがしい顔は今も忘れられません。がんばってきたよかったです感じた瞬間でした。

また、僕は生徒会長としても多くの経験をしました。体育祭では、小中の児童生徒全員が達成感を味わい、見ている人にも喜んでもらえることを目指しました。声がかかるまで出し、児童・生徒同士で励まし合い、支え合って最高の体育祭となりました。

「ツナグー感謝・感激・感動を」がテーマの文化祭では、台風19号災害の募金活動を行い、たくさんの人とつながりました。地域の方は僕たちに「ありがとう」と言って笑顔で募金をしてくださいました。児童生徒の合唱をきいて感動して泣いてくださる方もいました。振り返ってみると、この温かい久井という町で育ったからこそ、僕は頑張ることができ、大きく成長できたのだと思います。

僕は、誰かのために自らが動く大切さを実感しました。

「父のような消防士になる。」
この夢をかなえるために高校、大学へ進学しても、挑戦し続けることを忘れず、何事にも全力で取り組んでいきます。

